

R3-12

1日防災学校の実施

- 管 内 檜山管内
- 分 類 避難訓練 危険対応能力 防災訓練 その他（ ）
- 教育課程 教科（家庭・社会科） 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
- 校 種 小学校（低）小学校（中）小学校（高）中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 1 町教委を窓口とした各関係機関との連携
- 2 発達の段階に応じた振り返りの実施

取組の実際

ねらい

- 体験活動を通して、いつ起こるか分からない自然災害に備え、自ら命を守るための知識や資質・能力を身に付ける。

内 容

1 町教委を窓口とした関係機関との連携

- ・ 第1学年、第2学年の特別活動において、振興局と連携して、防災カルタを実施し、防災の大切さについて理解を促した。
- ・ 第3学年、第4学年の特別活動において、町役場と連携して、段ボールベッドを作成し、避難所生活の大変さについて理解を促した。
- ・ 第5学年の家庭科において、振興局と連携して、災害食づくりを行い、避難所生活の大変さについて理解を促した。
- ・ 第6学年の体育科において、消防署と連携して、自然災害の実態や応急処置について学び、災害時の行動について考える機会を設けた。



【1年・2年防災カルタ】



【3年・4年段ボールベッド】



【5年災害食づくり】

2 発達の段階に応じた振り返りの実施

1日防災学校の取組が表面的、形式的な指導とならないよう、発達の段階に応じて具体的な場面を想起させ、振り返る取組を行った。その結果、児童からは以下の感想が挙がるなど、取組の成果につながった。

- 第1学年：「地震が来たら津波のことを考えて高いところへ逃げるようにする」
- 第2学年：「防災カルタで覚えたことを思い出して生活する」
- 第3学年：「家族で逃げる場所を決めておきたい」
- 第4学年：「災害バッグの準備や避難できる場所を覚える」
- 第5学年：「水や食べ物を大切にしたい」
- 第6学年：「もしものときは慌てないで助け合って行動したい」

成果と課題

- 発達の段階に応じた具体的な体験活動を通じて、児童は災害時の行動について理解を深めることができた。
- 第1、2学年及び第3、4学年は2学年合同で指導を行っていることから、来年度の第2学年、第4学年は2年間同じ活動とならないよう、活動内容を見直す必要がある。